

三条マルシェを中心とした にぎわいの創出

六斎市

Sanjo tour MAP

まちあるき

マルシェ部

三条マルシェ

まちなか応援サポーター

中心市街地
活性化

空き店舗出店

創業塾
pontekia

交流拠点みんくる

さんじょう
108appy

商品開発講座

三条マルシェがつくるにぎわい空間

三条の魅力を余すことなく楽しむ!!
三条の魅力を“内”から“外”へ見せる!!

“外”の魅力を柔軟に取り込む!!
“外”と交流・連携しマルシェに深み!!



学生出店



スイーツフェア



給食レストラン



警察署PR



書道ガールズ

市内

市外

県内

県外



現役力士の稽古



交流出店（武雄市）



大道芸



避難者出店（南相馬市）



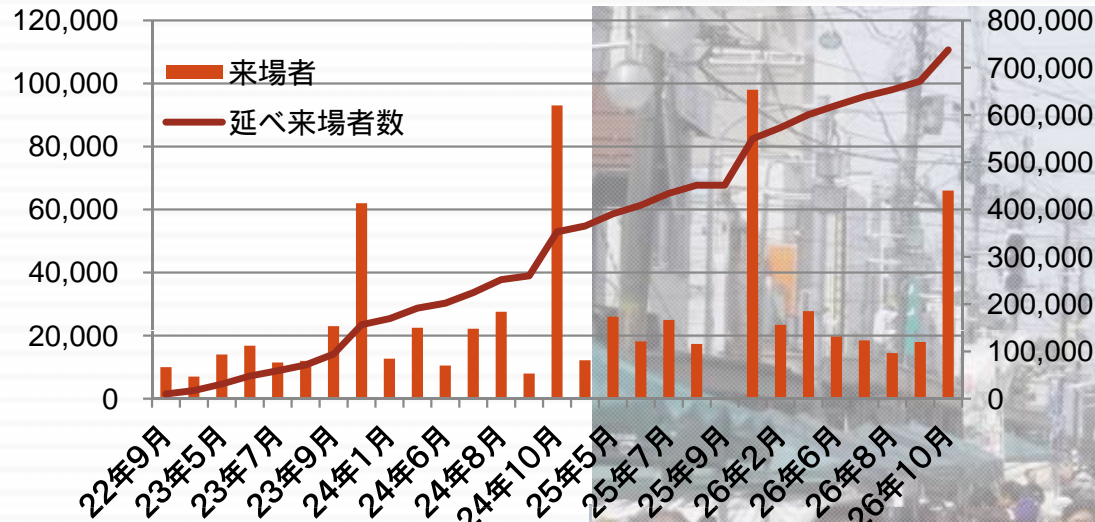
市民主体の実行委員会

まさに“ごった”市!!

三条マルシェがつくるにぎわい空間



にぎわいによる「歩く」の促進



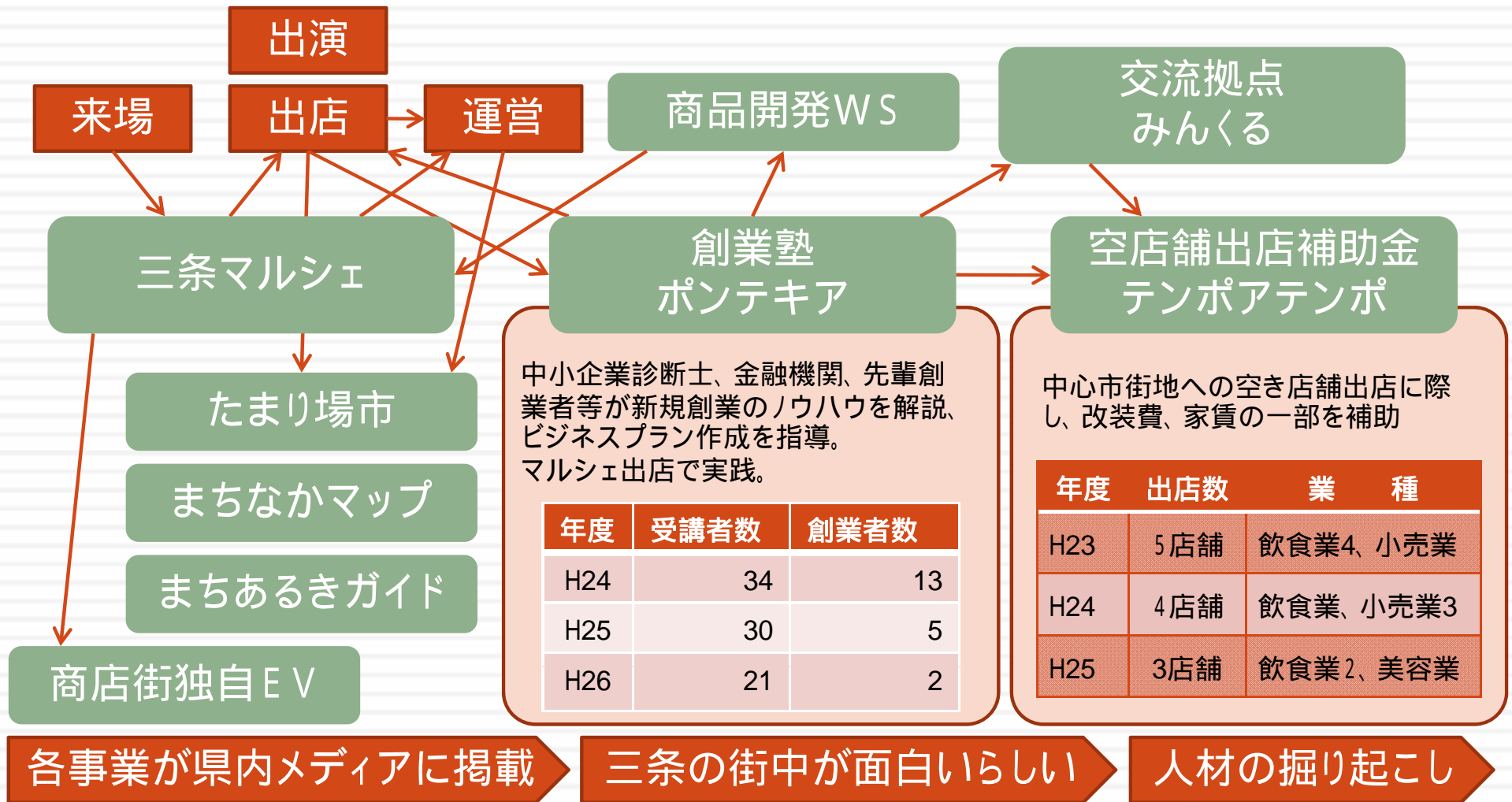
マルシェ来場者数の推移



マルシェ会場内歩数の分布



三条マルシェからの広がり



交流拠点みんくるの整備 みんくる

大正年代の赤レンガ倉庫と、昭和初期の伝統的な町屋造りの母屋からなる米穀店跡を改修し、お休み処、イベントスペース、飲食・物販チャレンジショップに。

みんくる来館者数の推移

1日平均 平日140人以上
休日200人以上



さらなる外出促進策の必要性

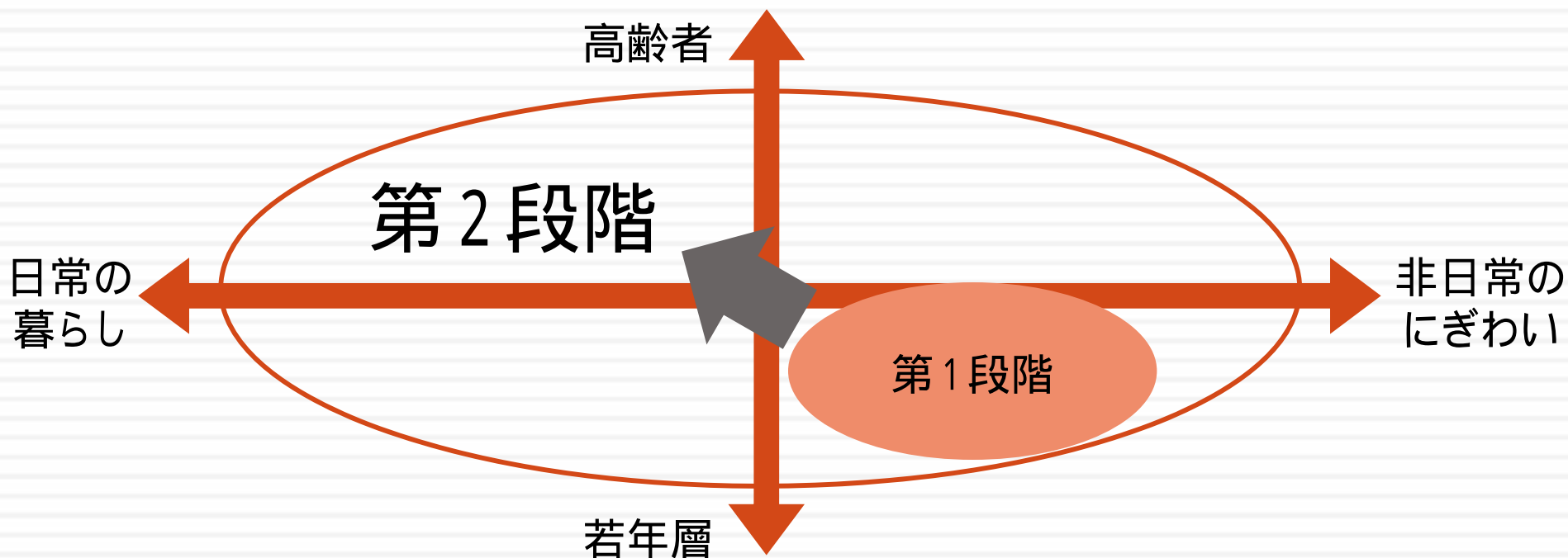


喫緊の対策が必要な現役高齢者の姿は、どこに？
マルシェは、あくまで非日常のイベント。日常の人出は？

さらなる外出促進策の必要性

【第1段階の成果】

- 1 三条マルシェを核とした「にぎわい」を創出
- 2 多くの市民が「まちなか」に目を向け、歩き出す機会を創出
- 3 参加者と主催者の敷居が低く、子育て世代・若者を中心に新たなプレイヤーを発掘
- 4 プレイヤーたちによる自発的・多発的な新展開



どうやれば歩くのか？

(2) 中高年が出掛けたくなる居場所をつくる

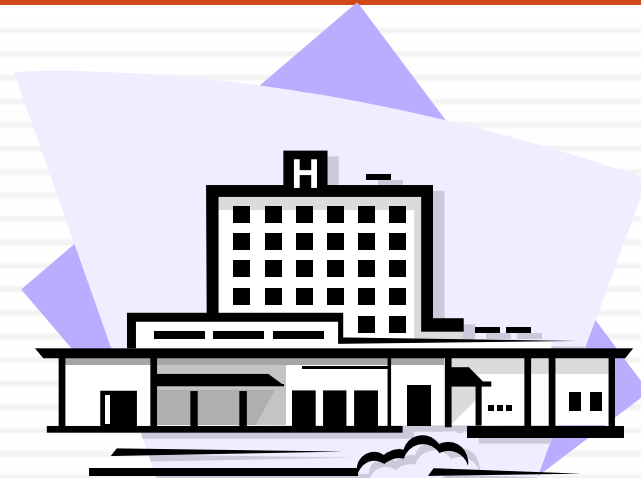
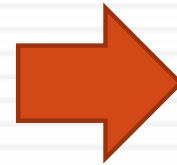
高齢者の理想の外出場所

なるべく低予算で

ゆったりとした時間が流れ

同世代と交流ができて

健康にもいい場所



病院の待合室？



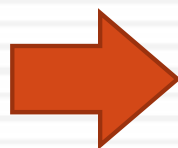
病院の待合室以外、
現役高齢者が出かけたくなる場所づくりが必要

さんじょう108appyの開催

中心市街地は公民館、図書館等が立地



壁に閉ざされた施設では
集まった人が見えない



生きがいづくり、友人づくりに
つながる外出の場



日々の活動を屋外で実施

「まちなかに出かけると、
いつも何かやっている」状況を目指す
主催者は、屋外開催で、新しい出会いに

定期市との連携



地名「三条」の最も古い記録は、
永徳2年(1382年)「三条七日市場」の記述

現在も毎月2,7,12,17,22,27の月6回開催
約100件・200小間の出店者



出店者・来場者とも高齢化傾向



- ・土日開催の定期市に月1回程度、
マルシェ出店者が参加
- ・マルシェ関係者も協力しパンフレット作成



まちなかで朝ごはん



・定期市会場内で朝食を提供し、
滞在時間を伸ばす 交流機会を増やす



・三条小学校区は独居高齢者が増加中
・家族と同居していても食事は一人が多い
・調理が簡素になりがち
・栄養が偏りがち



全天候型広場の整備



- ・定期市会場に隣接する学校給食共同調理場が廃止
跡地を広場として整備

全天候型広場の整備



外出機会が減り、閉じこもりがちな高齢者が出かけ、『縁側』のように屋外(ソト)と屋内(ウチ)の中間的な領域として気軽に立ち寄り、ときには一人で、ときには知人と思い思いの時間を過ごせる場として整備する。